

浄土宗奈良教区青年会

東北地方大震災 復興支援活動報告

平成23年6月21日～24日

平成23年6月21日より4日間、浄土宗奈良教区青年会は有志を募り、東北地方大震災復興支援活動を行った。

21日午後、近畿ブロック浄土宗青年会の主催で厳修された平等院での東日本大震災物故者追悼法要ならびに災害復興祈願に参集した後、有志8名は19時半に京都・宇治を出発した。自家用車2台に分乗し、名神高速道路・北陸自動車道・磐越自動車道・東北自動車道を経て翌22日の8時半頃、津波被災地区に入った。

仙台市若林区荒浜西の浄土寺は海岸線より500メートルに位置し、本堂はじめ庫裡・墓地など伽藍は基礎を遺すのみ。多数散乱した石仏地蔵尊・寺号碑・歴代上人の墓標などが、浄土宗寺院が存在したことを物語る、凄惨な状況であった。周囲も同様に津波が一切をさらい、かろうじて姿をとどめた小学校と数棟の全壊した建造物から街並みを思い浮かべることが容易ではなかった。3カ月が過ぎた当日は、家の屋根や電柱など、巨大な瓦礫は撤去されていた。

22日は一日通して、浄土寺墓地にて小さな瓦礫の採集および分別作業を行った。家壁の破片・屋根瓦・アルミサッシ・電線・水道管・衣類や布団などが主で、その他、食器・おもちゃ・カセットテープなど無数の生活用品を拾い集めた。墓石に挟まれ、取りだすことが難しいものも多かった。



正午には、兵庫教区青年会の10名の諸上人と共に車で5分ほどの距離にある照徳寺にて、追悼法要を行った。照徳寺近辺も浄土寺と同様の被害を受けていたが、幸いにも本堂は倒壊を免れていた。ご厚意にあずかり昼食を境内にて頂戴した。ただし、照徳寺も水道・電気の復旧は未だなされていないようだった。



午後には大変風が強くなり、作業は難航した。15時過ぎ、作業を終了するよう伝達があり、浄土寺墓地前にて勤行して、22日の復興支援を終了した。



翌23日の朝6時50分頃、仙台市内の宿泊先にて大きな揺れを感じた。震源は岩手県沖で地震規模はM6.7、仙台市の震度は3～4であった。津波注意報が発令され、一同は一時騒然としたが、地元の方々は平然とされていた。現地での過酷さを思い知った。

仙台市はこの日、朝から強い雨が降り、浄土寺での作業は困難と判断した。そこで予定されていた雨の場合の作業地である、石巻市門脇町の西光寺に向かった。先日の仙台市よりも、石巻市は瓦解した建物が多く残り、被災前の街が思われ悲しく感じた。

西光寺は旧北上川の下流付近に位置し、海岸線からの距離はおよそ1キロメートル。津波が周りの建物を押し流し、山門を砕き、本堂に迫ったが、すぐ手前で奇跡的に止まったようだ。直後は瓦礫

がうず高く積っていたそうだが、当日には完全に撤去されていた。それでも汚泥が広範囲に残り、潮の香りと降雨のせいもあって強い腐敗臭がした。



到着した頃には、晴天となったため、おつとめの後、墓地の清掃作業を行った。ここでは群馬教区青年会と共にあった。スコップで汚泥を掬いながら、家の柱や床タイルの破片などを取り除き、運搬した。一区画を集中的に清掃したが、汚泥は深く堆積し、大きな木材や石に阻まれ、作業は困難を極めた。降りだした雨が強まり、15時半に大雨警報が発令されるまで力を尽くしたが、汚泥を撤去できたのは10畳ほどの面積であった。



疲労を考慮し23日夜は近郊の蔵王町に宿泊し、翌朝東北を出立した。東北自動車道・首都高速道路・東名高速道路を経て、深夜、参加8名とも怪我や事故なく奈良に帰ることができた。

瓦礫と化した被災地区に此の世の無常を痛感させられた。大きな厄災に見舞われた今こそ、真に人間が救われるみ教えが渴望されている。物質的な復興だけでなく、精神的な充足にも力が加えられなければならない。お念仏の真価が当に求められている。



【復興支援へのご協力お願い】

奈良教区浄土宗青年会では、今後とも東北地方大震災の復興支援に力を傾けてまいります。今回の経験を基に、再度、現地での復興支援を行うつもりであり、次回以降、被災地で力を貸していただける有志の方を求めています。

今回、現地での活動資金を援助して下さったご寺院さまには、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。第二回に際し、お力添えいただける教区寺院様がおられましたら、お申し出いただくと感謝の極みであります。不躰ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。また、毎月の義捐金托鉢も月に3～5日間のペースで継続してまいります。7月中は8日～10日に近鉄奈良駅にて街頭托鉢を行う予定です。

東北地方の復興は、同じ国に住まう我々自身の復興でもあります。昨今、多様場面で足元が揺らぎつつある現代社会を立て直すべく、ご協力いただけるよう、伏してお願い申し上げます。

